西東京市市民協働推進センター

令和４年度第３回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和４年７月 19 日(火)午後７時 00 分～８時 00 分
■開催場所：オンライン開催（Zoom）
■出席委員：川村委員、佐藤委員、柴委員、柳委員、久松委員、馬渕委員、森谷委員、山本委員
<以上８名>
■事 務 局：小松センター長、鈴木副センター長、小口地域福祉推進課長、中澤地域福祉推進係長

1.報 告 事 項

1．事業報告について

事務局より、5-6 月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談に対する質疑応答とした。

副委員長：西東京ビジネス交流会への参加とあるがどのような交流会だったのか。

事務局：商工会とは別で、ゆめこらぼの登録団体でもある西東京ビジネス交流会が主催したものである。営利非営利関係なくメンバーになる事ができる。コロナ前は会食ありで、情報交換会を行っていたが、今回は名刺と情報の交換会を行った。

2．７月以降の事業について

事務局より、７月以降の実施事業に対する質疑応答とした。特に質疑は無かった。

2. 審 議 事 項

1．前回の会議録について

委員長：意見が無ければ確定稿とする。

3. 協 議 事 項

1.令和４年度 NPO 法人・市民活動団体実態調査報告とクロス集計について

事務局より、令和４年度 NPO 法人・市民活動団体実態調査報告とクロス集計について説明があった。

委　員：課題のところを見ると人材不足だとか後継者がいないなどの記載がある。この結果に対しゆめこらぼはどのように対応しているのか。

事務局：実態調査では報告以上の対応はしていない。結果を見てフォローアップ講座ができないかと事業に組み込む材料にしている程度だ。

委　員：団体から同じように相談がきたときはどうしているのか。

事務局：相談に関しては、自分たちの活動に共感してくれる人を増やしていくしかない部分があるので、周知し仲間を増やすことが大切だと説明する。イベントを紹介したり周知の方法をお知らせしたりする。すぐには解決できないが、そういう対応となってしまう。

委　員：調査の集計結果が出た後、ゆめこらぼが何をしてくれるか、そういう部分が強調される。結果が出た後、何をしていくかを考えながら打ち出していく必要があると感じた。

事務局：事業ごとにアンケートを取っているが、広く何でも聞くと聞いた責任が出てくる。今回の実態調査もそこを踏まえてやっていかないとならないと考えていた。
委　員：調査結果の後の打ち出し方が難しいし。
事務局：実態調査は事業組み立ての素材にしていることをどう広報していくかなど掘り下げて考えていきたい。
委　員：実態調査だが３年ごとに行うと記載があるが、実態調査の質問項目は毎回、テーマも含め変わらないのか。
事務局：質問項目は全てが同一ではない。例えば今まで男女比については取ってなかった。
委　員：項目は毎回、事務局で検討して行っているということか。
事務局：そうだ。
委　員：調査項目で最後の項目はコロナ感染が中心となっているが、コロナ禍でない時はどのようなことがあがっていたのか。
事務局：今回新たに入れた項目であり新型コロナウイルス関連で聞いているので、前回と比較はできない。
委　員：運営しているうえで、課題はあるかという項目はあるが、工夫していることはあるかの質問項目はあるのか。
事務局：課題は何かを聞いて、あるなしのみで、工夫を追う質問はない。
委　員：社会科学で調査する分析などのやり方は一般的にあるのか。その手法があればそのまま当てはめることができるのではないか。
事務局：クロスをかけるような基本的な手法はわからない。わかる方がいれば教えて欲しい。

2. NPO パワーアップ講座について

事務局より、NPO パワーアップ講座（案）について説明があった。
委　員：参加費についてだが、無料にしなくてはならない縛りがあるのか。
事務局：委託契約の仕組み上、費用を取るとその分委託費を減らさないとならないという決まりがある。
委　員：文章と写真を合わせて一つのチラシみたいなデザイン、写真と文章を用いてアピールするまでを含めた技術までを教えてくれると考えて良いのか。
事務局：デザインをしてチラシ作りまでは考えていない。写真と文章で自分たちの活動を SNS 等で PR するとことができるとか、写真と文章を入れる初歩的な事を考えている。
委　員：参加対象者だが、SNS についての説明をするわけではなく、基本的なことは知っている方か、それを含めてインスタとかツイッターとかだと効果的な手法を教えるのか、わかるようにした方が良いのではないかと感じた。
事務局：技術的にあまりにも差があるとインスタって何っていう所からだと少人数であっても対応が散漫になってしまうので、講師打合せていくが、参加者のターゲット絞る形となると思う。
委　員：絞ったほうが良いとは思うが、絞り方もある。先ほどのアンケート結果でいくと、ゆめこらぼに助けて欲しいところで広報や PR の活動支援などの記載があったので、SNS の活用術としてという絞り方もあるし、初心者も含めてもなのか、対象を誰にするのかで、よりニーズに合ったものになると思う。

委員長：SNS の習熟度は必要かと思う。ハッシュタグの効果的な付け方が知りたいと思った。仮称だが、目につく写真より目をひく写真方が上品な感じがする。

事務局：講師と打合せをして進める。

3.市民協働推進センターゆめこらぼ第三者評価内部評価シートについて

事務局より、市民協働推進センターゆめこらぼ第三者評価内部評価シート（案）について説明があった。

副委員長：８月末を目処に質問や意見があれば事務局へ送って欲しい。

4. そ の 他

1．その他質疑について

委員長：先日、社協へ後援の申請に行ったら、毎年、市とも共催している事業で後援も取っている活動にも関らず、今回から厳しくなり、規約、名簿、チラシの提出を求められた。チラシは後援がおりた後でなければ作成できない。チラシの提出要求は段取りとして矛盾している。ゆめこらぼの登録団体であれば、社協で規約や名簿など再度提出する必要があるのか。提出書類免除要件が有るらしいが、ゆめこらぼ登録団体においては再度の提出を免除しても良いのではないかと提案させて頂きたい。

事務局：ゆめこらぼも社協なので、社協の了承がなければゆめこらぼの登録団体とはないらし、団体登録の際、規約や名簿の提出はされている。

事務局：法人運営が判断していることで、今ここで答えられない。ゆめこらぼに登録したいという団体の活動内容に問題があつた。すでに社協が後援しチラシも配布されていたが、後日、社協の判断で後援をとり消した事実がある。そのような経緯があり、内部で検討する必要があると思っている。行事の内容については時間をかけて検討の必要がある。政治、宗教など奥に潜んでいるものがあるので、現在慎重になっている。申し訳ない。

委　員：慎重になるのもわかるし、イベントの内容を審査することもわかる。しかし、市が共催しており、社協も出店している行事であるにも関わらず、杓子定規に書類の提出を求めるのはどうかと思う。免除要件も明確にしていただき、社協内で良く検討してもらいたい。

事務局：ありがとうございます。

委　員：仕様書についてだが、変更点や追加点があるのか。

事務局：ない。

委　員：市との連携業務についてだが、基本的に義務的な内容として考えてよいのか。

事務局：ゆめこらぼの年間計画としての事業はあるが、コロナの影響などで実施できないこと等は市と相談して決定していくこともあり、義務的では無い。

委　員：職員の配置について、センターの運営の反省点に記載されているが、１名しか配置できないときは、市と協議して対処方法を打ち出しているのか。

事務局：そこは課題となっている。市とのやり取りで昨年に引き続き、今年度も改善できていない。市に対して予算要求もしているが、市としては２名ずつ配置できるように委託金は出ている。１名配置になってしまい、工夫されていないのはゆめこらぼも含め社協の責任である。

委　員：防火管理者の件だが、警察署や消防署と直ぐ連携できる仕組みがあるのか。

事務局：センター長が防火管理者であり、防災の計画も作成しており、何かあった場合はすぐ連携取れる仕組みは作っている。

2．次回運営委員会日程について

日時：10 月 18 日（火）19 時～20 時

会場：オンライン Zoom